

めがね橋ライトアップ事業(合併60年記念事業)

松川・町づくり委員会21

通年事業のライトアップと松川町から福島市へ合併60年を記念して、昭和41年合併当時の松川町の様子や合併条件などを三浦富治先生の講話、その後の松川町の出来事等について、地元の議員である、半沢雄助様・渡辺敏彦様・尾形武様に語っていただき、+委員会21の皆さんもコラボして振り返り、今後の松川町について思いをはせる企画とする。今年度当会のメイン事業と考える。

日時 令和8年8月16日(日) 午後6時～
雨天中止(午後3時判断)

次 第

1, 開 会セレモニー

司会 菅野事務局長

○午後6時開会

会長挨拶

ライトアップ点灯

(来賓あいさつ 県会及び市会議員)

2, 合併60年時事放談

進行 植木副会長

- 三浦富治先生 合併のころ・合併条件
- 半沢雄助様 福島大学・福島県立医科大学がなぜ松川町にきたか
福島市の南玄関としての松川町とは
- 渡辺敏彦様 都市計画法→調整区域が線引きされたころ
松川町農業協同組合
- 尾形 武様 松陵中学校のこと(下川崎の分割も含めて)
金谷川駅前区画整理事業

■ 委員会 21 みんなの思い

3, 閉 会 御礼挨拶

酒田副会長

○午後7時～7時20分 閉会、撤収

合併60年 年 表

昭和41年6月(1966)信夫村とともに合併

昭和42年4月(1967)松川広域簡易水道建設工事着工

昭和45年 土地改良事業着工(60年度まで15区画計画)

昭和46年 広域簡易水道竣工 給水開始

昭和47年 国鉄川俣線 廃止

昭和49年 松川町商工会館落成 (昭和35年松川町役場新築内設立)

昭和50年 東北縦貫自動車道開通(白石まで)

松川公民館落成

昭和53年 福島消防署南出張所落成

南部学校給食センター落成

福島市立松川幼稚園開園

昭和54年 松川運動場落成

福島大学教育学部が松川に移転

昭和55年 金沢埋立処分場完成

昭和56年 上蓬萊橋竣工

福島大学経済学部松川に移転

昭和58年(1983) 土合館公園落成

金谷川駅橋上駅舎完成

福島南バイパス全線開通

昭和62年 羽山土地区画整理組合設立 造成工事着工

福島県立医科大学付属病院・大学 光が丘へ移転

昭和63年 A コープ松川店開店

平成元年(1989)消費税新設 税率3%

かぐや姫まつり開始(商工会主催10年間)

平成2年 南体育館落成

平成4年 美郷団地入居開始

松川・町づくり委員会 21 発足

平成6年 新福島農業協同組合発足

平成7年 松川駐在所 字土腐に移転

天王原市営住宅入居開始

第50回国民体育大会夏季大会開催

平成8年 松川郵便局 字土腐に移転

平成9年(1997)土合館公園 第1回あじさい小路開催

平成10年 松川工業団地分譲開始

平成11年 福島南部消防署落成

平成15年 すりかみ浄水場落成

平成18年 福島松川スマートインター運用開始

平成23年(2011) 3月11日午後2時46分 東日本大震災 震度6弱

平成27年 松川支所学習センター落成 松川支所に13台の山車集合

JR 松川駅 新駅舎完成

平成28年(2017) 熊本地震・二日後 M7.3 の本震発生

平成29年 松陵中学校生徒会作成の松川カルタ制作活動

全国チャレンジカップ2017 最優秀グランプリ受賞

平成31年 まつかわ西幼稚園・まつかわ東幼稚園・金谷川幼稚園閉園

松川幼稚園が新設 開園

令和2年(2020)新型コロナウイルス感染拡大

令和3年 松川町の朝市を初開催

(松川町 Enjoy プロジェクト実行委員会)

八丁目城跡周辺整備協議会設立

令和4年 福島県沖地震 福島市震度6弱

めがね橋(福島の石橋群)土木遺産認定

令和5年 松川小学校水原小学校と統合

松川・町づくり委員会 21 30周年記念事業、記念式典開催

令和7年(2025)松陵義務教育学校開校

(金谷川小学校・下川崎小学校・松川小学校

松陵中学校の四校が統合

令和8年 旧まつかわ東幼稚園 利活用に関する基本協定締結

(福島市&イトマキ建築株式会社)

松川町の変遷

昭和41年(1966)6月1日									
福島市									
昭和30年(1955)3月31日									
松川町									
昭和30年(1955)3月19日									
松川町									
明治22年 (1889) 4月1日		明治22年 (1889) 4月1日				昭和11年 (1936) 11月1日			
下川崎村		金谷川村				松川町			
						明治9年 (1876) 5月19日			
						明治9年 (1876) 5月28日			
						浅川村			
						慶長9年 (1604)			
水原村		浅川村				松川村			
延宝元年 (1673)		慶長9年 (1604)				松川村			
水原下村		浅川新町村				松川村			
水原上村		浅川村				松川村			
沼袋村	下川崎村	水原村	関谷村	浅川村	金沢村	鼓ヶ岡村	天明根村	八丁目村	

※昭和31年7月1日、昭和32年8月1日、旧下川崎村の一部が分町、安達村へ編入復帰

松川町の誕生

この機会に松川町誕生の経過を概観してみます。

現在の松川町は表のように合併に合併を重ね誕生しています。

まず、第一時期は明治 9 年(1876)である。明治 9 年は地租改正に伴う地押し丈量(測量)が実施された年であり、飛び地解消のため合併が進んだといわれる。この年お祭り 10 月 10 日と定められた。

第二時期は、憲法発布を翌年に控えた明治政府は、市制、及び町村制と言われる現在の地方自治法に相当する法律を明治 21 年(1888)4 月 25 日公布した。これに基づき県の指導により、明治 22 年に多くの合併が実現した。この合併を進めるにあたり「旧町村ノ名称ハ大字トシテコレヲ残スベシ」と通知し旧村名を温存した。これにより合併も円滑に進んだという。

第三時期は昭和 28 年(1953)、市町村合併促進法が施行された時期である。この時期に現在の松川町が誕生している。

福島市へ合併

昭和 40 年には市町村の合併の特例に関する法律が公布され、国において市町村の広域化を促進する施策がとられた。昭和 41 年(1966)1 月 22 日、福島市、松川町、信夫村の合併を前提とした合併協議会を設けた。これを受けて町では合併審議会を設け、その是非などを審議することとし、町議会議員 25 名、教育委員 5 名、農業委員 15 名、連絡員 65 名、各種団体長 30 名計 140 名の審議会委員を選任し、審議した。

そして、同年 6 月 1 日信夫村と共に福島市となった。次いで昭和 43 年(1968)10 月 1 日吾妻町が合併した事により信夫郡全域が福島市となり、信夫郡は消滅した。

合併当日松川町では午前 8 時 30 分から支所の開所式があり、福島佐藤実市長から職員に対して辞令が交付され、続いて市長が「20 万県都誕生を心から喜びたい、今後は水資源の開発、文教政策など合併の条件を忠実に守り地区民の福祉と発展に合併を喜ばれる市政の進展に努力する」と式辞を述べた、支所長となった前阿部伊勢松町長は「町の歴史に記念すべき日を迎え感慨ひとしおだ。20 万市民の幸福のため事務を取り扱うことになったが、和、努力、新設をモットーに勤務に励んでほしい」訓示した。信夫村では同日午前 9 時 30 分から行われた。

尚、合併条件の主なものは、上水道の早期給水、および建設中の松陵中学校は、近郷では珍しいスチーム暖房、体育館はバレーコート 2 面を設備するなどグレードの高い校舎であった。そのため、このグレードを維持した設計通りの校舎建設を要望した。

なお合併前年の国勢調査人口は

福島市	173,680
松川町	13,369
信夫村	9,786

計 196,835 との記録も残る。

松川広域簡易水道完成

水道布設は松川町が福島市へ合併条件の一つであったが、松川広域簡易水道として4年がかりで工事を進めてきた。水原、下川崎を除き配管工事が終了、給水人口8千人で昭和46年(1971)3月から本格的給水を開始した。その後昭和52年(1977)4月には福島市上水道に統合した。

飲料水の危機

松川広域簡易水道の水源は阿武隈川である。ところが平成23年(2011)3月11日東日本大震災のため、東京電力原子力発電所の事故により福島県は放射能の汚染にさらされた。当然阿武隈川の水質も汚染された。

幸いにも、この時点では摺上ダムが平成17年(2005)9月に完成し、飲料水として供用を開始していた。もし摺上ダムが完成していなかったら、福島市民はどのような生活を送っていたかと考えると鳥肌が立つ。

なおダム建設に要した歳月はおおよそ20年であった。

前代未聞の避難民受け入れ対応

東日本大震災に伴う東京電力原子力発電所の事故により浜通北部の町村住民の多くは故郷を離れる避難を余儀なくされた。避難民の対応は避難先の自治体および自治体施設の管理する自治体が対応することになるのが法の定めるところである。しかし如何せんこれまで経験したこのない大災害のため福島市では受け入れ対応には困難を極めた。福島市では商工観光部が中心となり、各部に避難民受け入れの体勢をとった。南体育館にも短期間ではあったが受け入れたこともあり、地元ボランティアで対応した。後日、対応に当たった商工観光部長の話では当初から四日間睡眠不足も重なり何をどう対応したか頭の中が真っ白になり思い出せなかったという。自宅家族の安否を確認しようにも、通信網の混乱も続き電話は通じなかったという。そこで五日目になり少し時間が取れたので自宅に戻ったら、両親の健在を知り又勤務についたといっていました。商工観光部の係長の任務は避難者へ貸与するため毛布の確保であったという。市内は元より市外のベニマルへ出向いたとき、初対面の自分の名刺一枚で毛布を確保できたことに市役所名の信用度に感激した。という。。

南体育館完成

旧金谷川小学校跡地に建設が進められていた南体育館が平成2年6月落成式を行い、3日から一般に解放された。鉄骨造りの1,532平方メートル、総工費2億8千万円。

松川支所新築

支所と学習センターが合築され字杉内33番地に移転新築され、平成27年3月2日から業務が開始された。建築費は10億7千4百55万8千円。土地購入費は1億427万1千円だった。

福島大学・福島県立医科大学移転の経緯と 松川の街づくりについて

1. なぜ移転する必要があったのか

移転前、福島大学は浜田町と森合、県立医大は杉妻町に位置し、好立地であったのになぜ？
→ 旧キャンパスには、大きく以下の問題がありました。

- 建物が古くなっていた
- 大学を拡充・近代化するには敷地が狭すぎた
- 福島大学の学部をひとつに統一し新学部創設を見据えていた
- 附属病院の診療科の拡大や研究施設の充実が求められていた

2. 移転先はどんな場所だったのか

当時は「福島市松川町浅川・関谷」などにまたがる、山林や畑が広がる小高い丘陵地でした。
ここを大規模に造成し、新しいキャンパスがつくられました。

敷地面積：福島大学・・・約43万㎡ 県立医大・・・約35万㎡

3. なぜ、この場所が選ばれたのか

選ばれた理由	ポイント
① 広い土地を確保できた	大学をまとめて収容できる、広大な敷地が必要だった。（地価の問題も）
② 福島駅からアクセスしやすい	福島駅から電車やバス、自家用車で移動しやすい場所が求められた。
③ 強固な地盤	大型建物を整備するため、災害に強いしっかりした地盤の丘陵地が適していた。

また、県や市が学園都市構想を持っていたため開発支援を行っていました。さらに、蓬萊団地などの大規模な住宅開発が進んでいたこと、周辺道路整備が進めやすかったことが移転を後押ししたとされています。

4. なぜ、受け皿になり切れない？

理 由	ポイント
① 市街化調整区域	アパートの乱立はあったが、民間商業施設等の開発が規制されている。

② 農業振興地域	農地法により田畑が守られており、都市計画法のみでは農地転用が認められない。
----------	---------------------------------------

すでに開発が進んでいた蓬萊団地や、移転後に開発が進められた美郷団地への住宅需要が集中し、それ以外の地域には開発規制がかかったまま居住環境は改善されず、南福島や福島駅（現在は安達駅周辺*）に人が流れ、現在に至ります。

※ 都市計画法に基づく「市街化調整区域」は福島市と伊達地方にのみ適応され、当時、乱開発される見込みが薄かった二本松、本宮、大玉にはもともと適応されていない。

5. 今後、どんな開発・街づくりが必要か？

住みよい環境を求めて、あらゆる年齢層から多くの意見が出ています。

- 市街化調整区域を廃止してほしい
- イオンやコストコなど大型商業施設を誘致してほしい
- 農地転用のハードルを下げてほしい（農業を続けられない、農地を管理しきれない）

ポイント	進めるべき対策
① 少子高齢化と急激な人口減少	むやみに宅地を増やすより、空き家対策や計画的な都市開発を。
② 需要と供給のバランス	住民の需要に合った施設整備、開発を進めていく。（開発許可制度の活用）
③ 挑戦する人（起業家）を応援する街へ	低価格での土地の提供・賃貸、地域型クラウドファンディング（出資）で応援
④ 行政だけの力では困難	「こういう街にしたい！！」という想いを明確にし、行政や民間業者を巻き込む。

松川の将来の青写真を、みんなで作りましょう！！

📌 プチ情報：金谷川プロジェクト

昨年、福島大学の学生を中心とした街おこしサークル「金谷川プロジェクト」が発足しました。学生目線から若者に選ばれる街にするために様々な活動を展開しています。

福島市松川町教育の沿革

福島市議会議員 尾形武

わが松川町における教育の沿革を振り返りますと、幼稚園・小学校・中学校・高等学校が時代の要請とともに設立され、今日を築かれた先人・先輩の皆様方の熱い思いが感じ取れてまいります。将来を担う子どもたちの教育と環境整備に、時代の変遷の中でいかに意を注いできたのかが、改めて実感するものであります。ここに温故知新として、福島市松川町における教育の沿革を記させていただきます。

記

【小学校】 松川小学校明治6年5月2日設立。水原小学校明治6年6月26日設立。金谷川小学校明治9年10月10日設立。下川崎小学校昭和42年4月1日設立。昭和41年松川町と福島市が合併され各小学校が福島市立となる。昭和44年3月金谷川小学校金沢分校廃止。昭和46年3月水原小学校狼ヶ森分校廃止。昭和54年9月水原小学校新築。昭和61年4月金谷川小学校新築移転。平成4年9月松川小学校新築移転。令和5年3月31日水原小学校廃止され4月1日松川小学校へ編入。

令和7年3月31日、松川小学校・金谷川小学校・下川崎小学校が廃止され、統合され4月1日松陵義務教育学校となり小学校から中学校までの一貫教育となる。

【中学校】 昭和22年4月1日、学校教育法（新制6・3制）の施行に伴い、昭和22年、松川中学校・金谷川中学校・水原中学校・下川崎中学校創設。

昭和30年3月31日、松川町、金谷川村、水原村、下川崎村が合併して松川町となる。昭和

38 年 3 月 31 日、旧松川中学校、旧金谷川中学校を統合して松川町立松川中学校。翌 39 年 3 月 31 日旧下川崎中学校を統合し、名称公募により松陵中学校となる、8 月 17 日新校舎第 1 期竣工。40 年 3 月 31 日、旧水原中学校を統合し私の 3 年生は 9 クラス約 390 名となる、8 月 19 日新校舎第 2 期工事完了。昭和 41 年 4 月 1 日、学区全生徒が新校舎に移る。

昭和 41 年 6 月 1 日、松川町と福島市合併し福島市立松陵中学校となる。翌 42 年体育館落成、校歌・校旗発表披露合同式典挙行。48 年創立 10 周年記念式典及び校歌碑除幕式挙行。

58 年 10 月 27 日同窓会結成。10 月 29 日創立 20 周年記念式典挙行、記念植樹・体育館ステージ改装。平成 5 年 11 月 6 日創立 30 周年記念式典挙行、図書室の整備・記念誌発行。平成 15 年 10 月 18 日創立 40 周年記念式典挙行、中庭整備・記念誌発行。平成 25 年 10 月 19 日創立 50 周年記念式典挙行、校旗新調・体育館暗幕設置・記念誌発行。平成 29 年 4 月 23 日全国チャレンジカップ 2017 最優秀グランプリ受賞（松川かるた）。

令和 7 年 3 月 28 日松陵中学校閉校式挙行、閉校記念誌発行。3 月 31 日松陵中学校閉校。

令和 7 年 4 月 1 日、松陵義務教育学校設立、松川全地区の小学校と中学校が統合し、新校舎が完成のもと小中一貫義務教育が始まりました。開校記念委員会が設立され、開校記念式典が挙行、記念碑・校旗・校訓等が披露された。旧中学校舎解体工事・グラウンド整備着工する。

【幼稚園】金谷川幼稚園・水原幼稚園昭和 41 年 4 月 1 日福島市へ編入。松川幼稚園昭和 51 年 4 月 1 日開設。下川崎昭和 57 年 4 月 1 日開設。平成 31 年まつかわ幼稚園に統合される。

【高校】昭和 41 年 6 月松川産業高等学校福島市へ編入、昭和 44 年 3 月廃止される。

※以上ご報告申し上げます。

令和 8 年 8 月 16 日。